

- ▶ 日本語に興味津々! 日本語と韓国語!! 〈その1〉
- ▶ TOPICS : どうなる!? 「IT導入補助金」(平成30年度補正)
- ▶ フォント あ・ら・かると: 「ナウ(明朝)」
- ▶ もりもじかわら版: 2019年度にやってくる大きな問題とAdobe製品の対応を考えよう!
- ▶ イベント情報

今月の
フォント

- 本文: さくらぎ蛍雪
- 見出し: ナウ-ME + 小町-ME

www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news

日本語に興味津々! 日本語と韓国語!! 〈その1〉

時代を遡って日本語を調べてみると、韓国語と重なる点があまにも多いことに気づきます。日本語、とくに仮名の起源は韓国にあるのか、今回は想像力を働かせながら、その謎を探ってみましょう。本記事は、「我楽多頓陳館」(www.snap-tck.com/)のご好意により掲載しています。

日本語のルーツ

諸説ありますが、そのなかの一説を紐解くと、韓国語と日本語はどちらもウラル・アルタイ・ツングース語族に属し、非常によく似ていると説かれています。弥生時代以後の日本民族(主として九州・四国・本州に住む日本人)が、東南アジア起源の南方系モンゴロイドと、中国大陸および朝鮮半島起源の北方系モンゴロイドの混血であることは考古学にも生物学的にも証明されつつあり、生物学的には南方系モンゴロイド1~2割に対して、北方系モンゴロイド9~8割程度の混血だといわれています。

また弥生時代以後も朝鮮半島から絶え間なく渡来人がやって来て、古代日本の歴史と文化に多大な影響を与えました。このことから、古代日本語が古代朝鮮語の影響を強く受けていることは至極当然だと思われれます。たとえば「万葉集」の表記法として有名な万葉仮名は、日本の国文学者によれば日本独自のものとされ、教科書でもそのように説明されています。しかし実際には、古代の朝鮮にも「吏読(イドウ)」と呼ばれる万葉仮名方式の表記法(古代朝鮮語を漢字の音読みと訓読みの音だけを使って表記したもの)がありました。年代的にみて、古代日本の万葉仮名はこの吏読を真似たものと思われれます。

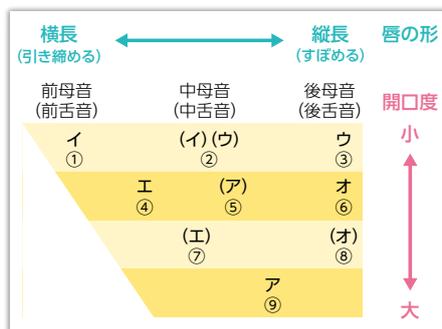
日本語と韓国語の母音

万葉仮名では同じ「イ」「エ」「オ」という母音を持つ音が2つのグループに分けられ、2種類の漢字でははっきりと区別して表記されています。このため現代の言語学者や国文学者は、多い方を「甲類」、少ない方を「乙類」と呼び、その区別について色々と議論しています。

ある学者は、古代の日本には現在の5つの母音「ア・イ・ウ・エ・オ」以外に、さらに3つの母音

「イ・エ・オ」があったのではないかと主張し、別の学者はそれらの母音は条件異音(前後の音環境によって同じ音が異なる音声として表れる現象)を異なる漢字で表記したものだだろうと主張し、また別の学者は文法的な使用法の違いによるものだろうと主張しています。

この一見難解で高度に学問的に思える議論は、韓国語のフィルタを通して眺めてみるとあっけないほど簡単に答が得られます。現在の韓国語には10種類の単母音と11種類の複合母音(2種類以上の母音が合成されてきた母音)があり、古代朝鮮語では、さらにもう数個の母音があったといわれています。つまり古代朝鮮語の影響を強く受けていた古代日本語にも、同じように現在よりも多くの母音があったと思われる。このことを踏まえ、母音と発声法の関係を図示すると次のようになります。



▲図 母音と発声法
口を大きく開くほど前母音と後母音が中母音に近づき、区別がしにくくなります。

母音の発声法から探る日本語と韓国語

- ① 普通の「イ」、発音記号では「i」
日本語の「イ(万葉仮名・甲類のイ)」、韓国語の「イ」、英語の「i(sit)」
- ② イとウの中間音、発音記号では「ɯ」
古代日本語の「イ(万葉仮名・乙類のイ)」、韓国語の「ウ」

- ③ 普通の「ウ」、発音記号では「u」
日本語の「ウ」、韓国語の「ウ」、英語の「oo(book)」
- ④ 普通の「エ」、発音記号では「e」
日本語の「エ(万葉仮名・甲類のエ)」、韓国語の「エ」、英語の「e(get)」
- ⑤ 口を半開きにした「ア」、発音記号では「ə」
韓国語に少し前まで存在した「ア」、英語の「a(ago)」
- ⑥ 普通の「オ」、発音記号では「o」
日本語の「オ(万葉仮名・甲類のオ)」、韓国語の「オ」、英語の「o(omit)」
- ⑦ エとアの中間音、発音記号では「ɛ」
古代日本語の「エ(万葉仮名・乙類のエ)」、韓国語の「エ」、英語の「a(mary)」
- ⑧ 口を大きく開けたアに近い「オ」、発音記号では「ɔ」
古代日本語の「オ(万葉仮名・乙類のオ)」、韓国語の「オ」、英語の「o(stop)」
- ⑨ 普通の「ア」、発音記号では「a」
日本語の「ア」、韓国語の「ア」、英語の「a(calm)」

このように古代の日本語には、「ア・イ・ウ・エ・オ」以外に、ウに近い「イ」(図中の②)、アに近い「エ」(⑦)、アに近い「オ」(⑧)の3つの中間音的な母音、つまり乙類の母音があったと考えられ、これらの母音は韓国語には現在も存在するのです。漢字の韓国語読みではこれらの母音ははっきりと区別して使用されていますので、漢字を知っている韓国人が万葉集を読むと、日本の専門の学者でなければ区別できない甲類と乙類をごく簡単に自然に区別することができるということです。

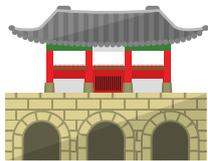


日本語から消えた母音

古代の日本語に存在した3つの母音が時が経つにつれて消滅し、現在の5つの母音が残った理由はある程度想像がつかます。本土の日本人は元々南方系モンゴロイドと北方系モンゴロイドの混血であり、当時の日本列島は現在のアメリカのような移民の多い土地でしたから、色々な言語や方言が混在していたはずで、そして中間音的な母音は色々な言語や方言によって発音が微妙に違うので、それらの母音は次第に明確な発音の母音に収斂(収束)していったと考えられます。

つまり、乙類の「イ・エ・オ」は、普通の「イ・エ・オ」に収斂したと考えられます。このことは前述の母音と発声法の関係図を見れば納得できると思います。図からわかるように、現在の日本語の5つの母音「ア・イ・ウ・エ・オ」は、発音上、非常に区別しやすい音なのです。現在でも、各地の方言や神社などで使用される特殊な言葉に中間音的な母音が残されていますが、これは古代の名残だと考えられます。

ただし、万葉仮名では区別されていたこれらの母音が、奈良時代後期から平安時代になって漢字と仮名で日本語を表記するようになると、表記上は区別されなくなります。母音が収斂したとしても、わずか50年ほどで母音が完全になくなるわけではないので、これは大きな謎です。



日本人と仮名

この謎については、中間音的な母音は実は条件異音に収斂していたため、話している日本人はそれらの母音を区別していなかったと考えれば解決します。つまり万葉仮名は、元々は朝鮮からの渡来人が吏読を参考にして編み出した表記法であり、奈良時代後期から平安時代になって、ようやく日本人が仮名を発明して自らの言葉を表記する方法をつくり上げたという説です。

万葉仮名が朝鮮からの渡来人によって書かれたのなら、条件異音を区別することができた彼等が母音を書き分けていたことも、万葉仮名で書かれた文章の中に古代朝鮮語と思われる言葉があることも納得できますし、日本人が書いた漢字仮名混じりの表記法では、それらの母音が区別されていないことも納得できます。

飛鳥時代から奈良時代の文化の担い手は渡来人が中心だったことを考えると、朝鮮渡来人が日本語を表記するために万葉仮名を発明したこと

は十分に考えられます。これはちょうど、幕末にイギリス人のジェームス・カーティス・ヘボンが、日本語を表記するためにヘボン式ローマ字を発明したのと同じような工夫だったのでしょ。

「ヤ行」と「ワ行」の不思議

日本語の「ヤ行」と「ワ行」は、韓国語では半母音と複合母音として分類されています。日本の50音図の中でヤ行とワ行だけが特殊な配列になっている理由も、これらが母音であることに由来しています。

ヤ行の音は、単母音の「イ」と「ア・ウ・エ・オ」が複合した複合母音と考えることができます。つまり、イア→ヤ(ia→ya)、イウ→ユ(iu→yu)、イエ→イェ(ie→ye)、イオ→ヨ(io→yo)となったわけです。これらの音は韓国語では全て母音として現存していますが、日本語ではどうしたわけか「イェ(ye)」が消滅してしまっています。これらが母音として機能できることは、「ャ・ュ・ョ」と小文字で表記されて、母音であるア行とワ行以外の行の、子音の後に発音されることからわかります。

同様にワ行の音も単母音の「ウ」と「ア・イ・エ・オ」が複合した、複合母音と考えることができます。つまり、ウア→ワ(ua→wa)、ウイ→ヰ(ui→wi)、ウエ→ヱ(ue→we)、ウオ→ヲ(uo→wo)となったわけです。これらの音も韓国語では全て母音として現存していますが、日本語では「ヰ」と「ヱ」は事実上消滅し、「ヲ」も特殊な用法しか残っていません。

以上のことを考慮して50音図を再編成しますと、右表のようになります。「ン(n)」は語(音節)の最後にくる子音で、韓国語では「パッチム」といいますが、パッチムは「n」以外にも「p, t, k, l, m」がありますが、日本語では「n」以外は全て後に母音がついて、普通の1文字となってしまっています。



日本人の発音と日本語

「シ(si)」と「チ(ti)」と「ツ(tu)」は実際には「shi」「chi」「tsu」と発音されますが、これらの子音「sh」「ch」「ts」は韓国語では「s」や「t」とは別に存在します。日本語ではこれらの子音は混同されて使われるようになったため、「チ」と「ツ」が濁音になった場合、本来ならば「ヂ(di)」「ヅ(du)」と発音されることを「ジ」「ズ」と発音され、発音上は「ジ」や「ズ」と区別が付かなくなってしまっています。

またワ行が母音として使われなくなったため、「ヱ(va)」「ヰ(vi)」「ヱ(vu)」「ヱ(ve)」「ヱ(vo)」という発音が、「バ(ba)」「ビ(bi)」「ブ(bu)」「ベ

	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ラ
ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ラ
a	ka	sa	ta	na	ha	ma	ra (la)
イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	リ
i	ki	si (shi)	ti (chi)	ni	hi	mi	ri (li)
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ル
u	ku	su	tu (tsu)	nu	fu (fu)	mu	ru (lu)
エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	レ
e	ke	se	te	ne	he	me	re (le)
オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	ロ
o	ko	so	to	no	ho	mo	ro (lo)

ヤ	キャ	シャ	チャ	ニャ	ヒャ	ミャ	リャ
ya	kya	sha (sha)	cha (cha)	nya	hya	mya	rya (lya)
ユ	キュ	シュ	チュ	ニュ	ヒュ	ミュ	リュ
yu	kyu	syu (shu)	tyu (chu)	nyu	hyu	myu	ryu (lyu)
エ	キエ	シエ	チエ	ニエ	ヒエ	ミエ	リエ
ye	kye	sy (she)	tye (che)	nye	hye	mye	rye (lye)
ヨ	キョ	ショ	チョ	ニョ	ヒョ	ミョ	リョ
yo	kyo	sho (sho)	tyo (cho)	nyo	hyo	myo	ryo (lyo)

ワ	クワ	スクワ	ツクワ	ヌクワ	フクワ	ムクワ	ルクワ
wa	kwa	swa	tswa (tsa)	nwa	hwa	mwa	rwa (ra)
ヰ	クヰ	スヰ	ツヰ	ヌヰ	フヰ	ムヰ	ルヰ
wi	kwi	swi	twi (tsi)	nwi	hwi (fi)	mwi	rwi (ri)
ヱ	クヱ	スヱ	ツヱ	ヌヱ	フヱ	ムヱ	ルヱ
we	kwe	swe	twe (tse)	nwe	hwe (fe)	mwe	rwe (re)
ヲ	クヲ	スヲ	ツヲ	ヌヲ	フヲ	ムヲ	ルヲ
wo	kwo	swo	two (tso)	nwo	hwo (fo)	mwo	rwo (ro)

▲韓国語(母音)との関連を考慮して再編集した50音図

(be)」「ボ(bo)」と区別が付かなくなってしまっています。

ラ行は実際には「r」ではなく「l」という子音で発音され、ワ行の母音が付いた時だけ「r」に近い音で発音されます。日本人は「r」の発音が下手で、「r」と「l」を区別して発音できないとよくいわれますが、この原因はワ行が母音として使われなくなったところにあるのかもしれない。

今回は、日頃何気なく使っている言葉や各地に残る方言、さらに数の数え方などに隠された日本語と韓国語の密接な繋がりについて解説いたします。ご期待ください。 つづく



2018年度は、「IT導入補助金」の活用により、多くのお客様にモリサワ製品をご導入いただきましたので、2019年度についても期待は大きいと思います。4月には具体的なスケジュールや公募要領が示されるでしょうが、取り急ぎ、今回は「IT導入補助金」の概要をご紹介します。

前回の「IT導入補助金」(平成29年度補正)

昨年度実施された「IT導入補助金」は、予算500億円で、採択予定者数は13万件が見込まれていましたが、結果的には採択者数約6万3000件

で終了しています。(下表参照)

第三次公募では、2週間ごとに7回の締切を設け、補助金活用による効果報告も1回のみとするなど、申請を促進する施策も実施されました。

今回の「IT導入補助金」(平成30年度補正)

2019年に実施される補助金は、「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進事業(ものづくり補助金)」「小規模事業者持続的発展支援(小規模事業者持続化補助金)」「サービス等生産性向上IT導入支援(IT導入補助金)」を一体とした

『中小企業生産性革命推進事業』で1100億円の予算が立てられています。

このうち、IT導入補助金に割り当てられる予算は100億円が見込まれていますが、昨年度と比較すると予算は5分の1、採択予定件数は約20分の1に設定されていることから、採択率の大幅なダウン(競争の激化)が予想されます。

それぞれの補助金

「ものづくり補助金」は、革新的なサービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善に必要な設備投資が支援されるもので、補助金上限額は1000万円(補助率最大2/3)と設定されています。また、「小規模事業者持続化補助金」(上限額50万円、補助率2/3)は、販路開拓に幅広く利用できるもので、IT化(HP作成、決済・会計ツール、外国人対応・翻訳ツールなど)の促進も対象となりますが、経営計画書と補助事業計画書の書類審査を受ける必要があります。

今年度も「IT導入補助金」についての最新情報は、随時お知らせして参ります。

		2018年度実施 (平成29年度補正予算)	2019年度実施 (平成30年度補正予算)
予算		500億円	100億円
採択予定件数		13万件	6000件
補助金額	上限	50万円	450万円
	下限	15万円	40万円
補助率		1/2	1/2
公募期間	開始	4月20日(一次公募)	5月27日(一次公募)
	終了	12月18日(三次公募 第7回)	未定
採択実績件数		約6万3000件	

永 フォント あ・ら・か・と

ナウ(明朝)

▶ 今月号のあ・ら・か・とでは、「ナウ(明朝)」を取り上げます。

「ナウ(明朝)」は、横画の太さを増すことで視認性を高めた現代的な横太明朝体です。明朝体のもつ優雅なイメージを保ちながらも安定した骨格とシンプルなエレメントで構成することで、大きなサイズではインパクトのある文字表現ができると共に、小級数においても可読性を保ちスッキリした印象を与えます。

1981年に写植書体として発表されたナウ-MUですが、当時は造形的にも斬新なタイプフェイスとして注目を浴び、80年代以降ポスターをはじめ雑誌広告・書籍・チラシの見出しなど幅広く使われるようになりました。

現在 MORISAWA PASSPORTには「ナウ(明朝)」に合わせて5つのかな書体「築地」「小町」「良寛」「行成」「弘道軒」も収録されています。シーンによって異なるかなを合わせてみるのも、書

体選びの醍醐味かもしれません。みなさんはどの組合せがお気に入りでしょうか?

「ナウ(明朝)」は、『MORISAWA PASSPORT』をご契約のお客様はいつでもインストールしてご利用いただけます。『TypeBank PASSPORT』、『TypeBank SelectPack 1/5』、およびWebフォントサービス『TypeSquare』でもご利用いただけます。

春のお花見に出かけよう

※ ナウ-MU

春のお花見に出かけよう

※ ナウ-MU + 築地-MU

春のお花見に出かけよう

※ ナウ-MU + 小町-MU

春のお花見に出かけよう

※ ナウ-MU + 良寛-MU

春のお花見に出かけよう

※ ナウ-MU + 行成-MU

春のお花見に出かけよう

※ ナウ-MU + 弘道軒-MU

永	あ				
鱗	ア				
永	永	永	永		

4月です。新たな年度のはじまりです。モリサワニュースもリフレッシュし、今回からは新コーナー『もりもじかわら版』としてお届けします。みなさまに役立つさまざまな情報を取り上げていきたいと思ひます。

さて新年度といえば大きなイベントが起きるのが世の常です。新人の入社や新しい法律の施行など、さまざま。タイムリーな話では、このモリサワニュースの発行日に新元号が発表されていることでしょうか(本原稿の執筆は3月なので、まだ情報がありません)。

そして設備の入替えなどを年度初めに行うこともあるかもしれませんが、今年度は第4四半期にとても大きなコトがやってきます。何かといえば、年明け、2020年1月14日に到来する「Windows 7のサポート終了」です。印刷や制作の現場に限らず、営業さんや事務の方など、企業であれば多くのシーンでWindowsが利用されているでしょう。しかもWindows 7はまだまだ現役バリバリの利用も少なくないはずなんです。

しかしサポートが終了したOSではセキュリティリスクの影響が避けられません。最近ではランサムウェアなどのさまざまな手口が出てきていますから、企業としては責任ある対応が求められます。リスク回避はいまや当たり前に考えるべきところなんです。

移行直前に環境を切り替えることもリスクになりえます。新しいシステムがうまく稼働するかの確認が行われていなかったり、駆込み需要によ

て予定通りの状態や台数が調達できない可能性もあるためです。その結果、業務に支障が出るおそれも出てきます。

またOSを切り替えることは、同時にソフトウェアの切り替えにもつながります。これから切り替えるとしたらWindows 10になり、もちろんソフトウェアもそれに対応するものを利用することになります。

ソフトウェアの例として、Adobeのアプリケーションをピックアップしてみます。Windows環境の場合、Windows 7ではかなり多くのバージョンが対応をし、最新のCC 2019もDTPアプリケーションは動作範囲に含まれてます。しかしWindows 10は2015年リリース、Adobe製品も同年リリースのバージョンから公式対応を謳っています。

ここで問題になる可能性が高いのは「永続ライセンスのCS6」でしょう。Windows 10ではCS6製品全般と、同時期にリリースされたAcrobat Xが動作保証されないためです。CS6のリリースは2012年5月のため、リリース直後に導入した場合は7年8か月の利用です。DTP環境としては長めだと思ひますが、利用は見直す時期になってしまった、という話になります。

Windows 10の場合、CC 2015.x以降からCC 2019すべてが動作保証となるため、最新版以外の、少し古いバージョンも利用できます。業務利用であれば安定したバージョンを求めたいところ。利用しやすい適正なバージョンで対応することを考えてみましょう。

バージョン	リリース時期	Windows 7	Windows 8.x	Windows 10 ^{2,4}
		2009.9~2020.1	2012.8~2023.1	2015.7
CS4	2008.12	○ ^{*1}		
CS5.x	2010.5/2011.5	●		
CS6	2012.5	●	●	
CC (2013)	2013.6	●	●	
CC 2014	2014.6	●	●	
CC 2015.x	2015.6/2016.6	●	●	●
CC 2017	2016.11	●	●	●
CC 2018	2017.10	●	●	●
CC 2019	2018.10	● ^{*2}	*3	●



① Windows環境ではAdobe製品の対応バージョンは長い。しかし新しいOSへの対応は原則行われないため、各バージョンで対応する環境は常にチェックしておこう。Creative Cloudの必要システム構成の書かれたWebページとそのリンク先で情報が確認できる。
<https://helpx.adobe.com/jp/creative-cloud/system-requirements.html>

*1 追加サポート扱いになります *2 ビデオ系製品はWindows 7ではサポートされません *3 CC 2019ではWindows 8はサポート外 (<https://helpx.adobe.com/jp/download-install/kb/os-support-for-cc-2019-apps.html>) *4 18か月のサイクルサポートになり(LTSB/LTSCを除く)、各アプリケーションのサポートもその対応に準じます

② WindowsのライフサイクルポリシーはMicrosoftのサイトにすべてまとめられているので、チェックしておくことサポート期限などの確認が簡単にできる。
<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/13853/windows-lifecycle-fact-sheet>

イベント情報

文字や書体の特性、組版における考え方の基本、デジタルフォントに関わる基礎知識を学んでいただける1日セミナーを開催。お申込みは <https://morisawa.eventcreate.net/event/3005>

文字組版の教室

【東京】開催日：4月19日(金)・5月24日(金) / 10:00~17:00
 会場：株式会社モリサワ 東京本社 9F・セミナールーム

【大阪】開催日：4月23日(火) / 10:00~17:00
 会場：株式会社モリサワ 本社 4F・セミナールーム

編集後記

各地で桜の開花情報が発表される季節、随時変化する状況においては常に新鮮な情報が求められます。デジタルメディアでの情報取得が一般的になっている時代ではありますが、溢れる情報のなかから、自分にとってわかりやすく、正確で欲しい情報を十分に提供してくれる発信源を見つけることは難しいものです。書店で手探りに本を探し、感動の書に出会う。デジタルの世にもそんな幸福感はあるのでしょうか。

✉ E-mail: m-news@morisawa.co.jp

発行:株式会社モリサワ 企画・編集:ユーザーサポート部
 ※記載されている会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

モリサワ www.morisawa.co.jp
株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪府浪速区敷津東2-6-25 Tel:06-6649-2151
 東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮町2-27 Tel:03-3267-1231
 仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel:022-296-0421
 名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel:052-201-2341
 札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6 サウスシティ2F Tel:011-700-0112
 福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel:092-411-5875
 鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田平ビル2F Tel:099-252-2255